

EU Indicators

発表日:2019年1月31日(木)

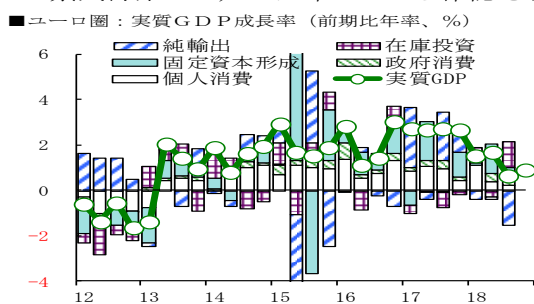
欧州経済指標コメント:10-12月期ユーロ圏GDP

～イタリアがリセッション入り、ドイツはリセッション回避～

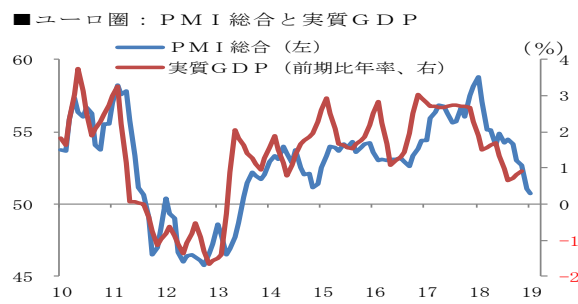
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

- ・ 昨年10-12月期のユーロ圏実質GDP成長率の一次速報値は前期比+0.2%、同年率+0.9%と緩やかな成長にとどまった。2018年通年では+1.8%と、2017年の+2.5%から減速。国別のヘッドライン計数は2月14日発表の二次速報値、需要項目別の内訳は3月7日の改定値で発表される。
- ・ 各国統計局から発表済みの国別計数は、フランス（7-9月期：同+0.3%→10-12月期）が前期並みの成長、イタリア（同▲0.1%→同▲0.2%）が2四半期連続のマイナス成長でテクニカル・リセッション入り、スペイン（同+0.6%→同+0.7%）が前期から僅かに成長が加速し、高成長を維持した。需要項目別の概要を含めたドイツの計数は2月14日に発表されるが、既報の2018年の年間計数から逆算すると、7-9月期の同▲0.2%から小幅プラス成長に復帰した模様。
- ・ 黄色いベスト運動による小売や観光への影響が懸念されたフランスは、一過性とみられる輸出の大幅増に支えられ、前期並みの成長となった。抗議運動は長期化しているが週末限定で、大規模ストライキ時の生産活動や物流がストップする状況にはない。イタリア統計局の発表によれば、外需がプラス寄与となったが、内需の落ち込みがこれを相殺した模様。
- ・ 自動車の新排ガス試験対応の遅れなどが7-9月期のドイツの成長率を押し下げたが、10-12月期のリバウンドも限定的にとどまった模様。同日発表された12月のドイツの小売売上高は前月比▲4.3%と大幅に落ち込んだ。さすがに、これは特殊要因とみられるが、これまで成長を支えてきた内需に陰りが出ているとすれば気掛かり。年明け以降の企業マインドが一段と低下するなど、景気再浮上の兆しは今のところ確認されない。



出所：Eurostat



出所：IHS Markit, Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
17/1-3月期	3.6	2.7	(0.0)	1.6	0.9	▲ 3.0	(▲ 0.4)	2.6	7.2	1.7
17/4-6月期	4.7	2.7	(3.0)	2.0	1.4	8.5	(▲ 0.0)	▲ 0.3	4.1	5.3
17/7-9月期	4.1	2.7	(0.6)	1.9	1.7	▲ 0.3	(▲ 0.7)	2.1	5.1	0.7
17/10-12月期	3.7	2.7	(1.5)	0.8	0.8	5.2	(▲ 0.2)	1.2	9.2	7.4
18/1-3月期	3.0	1.5	(1.9)	2.1	0.0	0.5	(0.7)	▲ 0.4	▲ 2.8	▲ 2.2
18/4-6月期	3.4	1.7	(1.8)	0.8	1.8	6.4	(▲ 0.3)	▲ 0.1	4.7	5.4
18/7-9月期	2.1	0.6	(2.2)	0.5	1.0	2.9	(1.1)	▲ 1.5	0.5	4.0
18/10-12月期	—	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。